

故人を弔う

お盆の過ぎしかた

今年の上半期はコロナウイルス一色に染められ、戦々恐々とする日々を過ごし、加えて先月は「令和二年七月豪雨」と命名された熊本県を中心に、九州や中部地方など日本各地で発生した集中豪雨に襲われた令和二年。「光陰矢の如し」とは言いますが、気づけば今年もお盆の月を迎えました。明るいニュースよりもどちらかと言えば暗いニュースが飛び交ってはいますが、明けぬ夜はありません。止まらない雨はありません。希望を胸に、顔を上げて、真っ直ぐ将来を見据えながら、下半期の日々も、大切な人生の一日一日を味わいたいと思う今日この頃です。

●【明るい未来をイメージ】

読者の皆様方には、前向きで、明るい想像を頭に巡らせて頂ければ幸いです。大ベストセラー『思考は現実化する（ナポレオン・ヒル）』では、「自分の頭で想像したことが、そのまま現実の形となって現れる」と喝破されています。前向きで明るい事を想像すると、想像したように運までも引き寄せると言います。また逆も然りで、マイナスの想像はマイナ

スを引つ張ってくるのだと言います。これには私も同感です。イメージは具現化するのだと思います。卑近な例え話であれば、梅干しを思い浮かべて下さい。果肉がぷっくりとして、色が鮮やかです。どんな味かするか、できるだけ具体的にイメージして下さい。梅干しをリアルに想像できた人は、口の中に唾液が出ているのではないでしょう。頭で思い描いた思考や創造力というのは、それがそのまま体にも直接影響を及ぼす mono ですよね。暗いことを想像したら、心まで暗くなります。目の前の現実は何も変わりません。だとしたら、同じ状況でも出来るだけ良いイメージを描いて、目の前の仕事や、家事などに取り組みましょうね。

●【苦しみを乗り越える方法】

「心頭を滅却すれば火もまた涼し」という諺があります。これは戦国時代の僧侶・快川（かいせん）が残した言葉だとされています。快川は武田信玄（山梨県・甲斐の守護大名）に仕えていました。武田氏が織田信長によって滅ぼされると、快川は信長に敵対していた武将らをお寺にかくまいます。このため快川のお寺は信長の軍勢に攻め込まれ、焼き討ちにされてしまいました。燃え盛る火炎の中、快川は坐禅を組み「本當の坐禅というのは、こころやるのだ。心頭を滅却すれば火もまた涼し」と。そして唐の詩人・杜荀鶴（とじゆんかく）の漢詩を「安禅（あんぜん）必ずしも山水を須（もち）いず。

心頭を滅却すれば火も自ら涼し」朗々と歌いあげ、快川は焼け死んでいったと伝えられています。当たり前ですが、実際に火や炎が涼しいわけがありません。心の持ち方一つで、いかなる苦痛も苦痛とは感じられなくなることを意味しているわけですね。

大概と意気込みを持って生き抜いていくことが大切であるという私達へ向けたメッセージだと受け止めたいですね。単なる思い込みや、やせ我慢というレベルではなく、私達に備わっている難局を突破していくための「覚悟」という潜在力を指しているのでしょう。実際に先人達は、幾多の困難や危機的状況を乗り越えてきました。「いかなる事態であつても何とかする。絶対よくやる。大丈夫」という、明朗な「覚悟」で、「希望」を旗印に掲げて切り抜けてこられた歴史があります。コロナウイルスばかり、自然災害ばかり、人生もうこれはどうにもならないんじゃないか、と思うような困難に何時なんどき見舞われるか分かりません。愛する人との別れ。突然の病気や事故など。あるいは、信じていた人から裏切られたり、大切にしていた家や財産を失ったり・・・私達は快川のようになれるものではないかもしれませんが、「いま自分は本当に最悪の状況なのだろうか？いや、まだ死んではいないぞ。この命があるじゃないか」と気がつき「覚悟」を決めれば、どんな苦しみも乗り越えられると信じています。

●【陰徳積善の功德】

大分県中津市にある「青の洞門（せいのもん）」と呼ばれる洞窟のような道は、江戸時代、禅海和尚（ぜんかいおしょう）が石工（いしこう）たちを雇い、三十年かけて完成させたと伝えられています。この道が造られる前は崖に張られた鎖を頼りに人馬（じんば）が往来し、滑落（かつらく）事故が絶えなかつたそうです。そんな惨劇を目の当たりにした禅海和尚がノミと槌（つち）を用いて、ただ一人で掘り進め、一七六三年に開通させました。一人で掘り続けられたというのは尋常な志ではありません。しかも三十年かかっているわけですからね。並大抵の努力ではありません。一見無謀のように感じる挑戦は、禅海和尚の慈悲の心から始まりました。一人の慈悲の心が、日々の地道な努力を生むことになり、遂に完成を見ました。その洞窟のお陰で、尊い人命が数十万、いや数百万人を数える人命が救われたとなれば、禅海和尚の功績は計り知れない功德があると云えます。功德を積むことを「積善（しやくぜん）せきぜん」と言います。それを人知れず行うことを「陰徳（いんとく）」と言います。挫けず、怯まずに一步一步の積み重ねが困難なことを成し遂げる力に恵まれます。



●【家族団欒のお盆を 過ごしましょう】

陰徳積善の中でも最高の行いが「先祖
供養」と言えるでしょう。ところで「供
養」って何だと思えますか？私も色んな
方から「供養が一番大切なことは何で
しょうか？」と質問されることが多々あ
ります。そこで私は必ず「故人を忘れな
い事です」とお答えするようにしていま
す。自分では親への感謝、ご先祖への報
恩を忘れたことがないと思っけていても、
ややもすれば命日すら忘れることだっ
てままあります。私達は目の前に起きて
いる現実、心を奪われ、「心コロコロ」
してしまうのが人情だとも言えましょ
う。親先祖様の存在は肉眼では見え
ず、形が無いとウツカリしてしまふもの
です。そこで「忘れないこと」が大切にな
るわけですが、抽象的に聞こえるかもし
れませんが（笑）。つまり、「忘れない」
というのは、いかに愛おしむ心を寄せる
ことができるかが重要なのです。『法華
経（ほけきょう）』に「心壞恭敬（しんえ
れんぼ）・渴仰於仏（かつごうおぼつ）・
便種善根（べんしゅぜんこん）』如来寿量
品（にょらいじゆりょうほん）第十六』
と説かれています。つまり、相手を思い
やる心に功徳の善行が伴うと示されてい
るのです。また日蓮大聖人（にちれんたい
しようにん）は「親は十人の子を養えど
も、子は一人の母を養うことなし」と仰

せられています。つまり、親はたとえ十人
の子どもがいても、みんな同じ愛情を持っ
て育てるものですが、子供はたった一人の
親ですら養うことが困難なものです。

昔の人は上手いことを言ったものです。

『先祖様は湯けをいただくのだから』
と。この格言を考えた時、お盆に「キュウ
リで作った馬」を供えることにもガテンが
いきます。「足が速いお馬さんに乗って一
刻も早く戻ってきてね。帰りはお土産を沢
山乗せてユツクリと帰れるように牛を用意
しました」と。要は愛おしむ心の度合いと
いうことになりましょう。

親先祖や故人の方々には、日頃から守っ
て頂いているという畏敬の念を込めて、お
盆をお迎えしていただきたいと思います。
それが、私達から故人への善行に繋がり、
陰徳積善となるのですから。「見えなくとも
もお花をお供えしたい。食べなくとも美味
を供えたい。聞こえなくとも話したい」。私
達は目先の苦しみ、絡め取られないよう
に、明るい未来を想像して、故人が安心し
て下さるように、元氣にお盆をお迎えした
いものです。今年のお盆は、どこにも出掛
けず、家族団欒の時を中心にお過ごしいた
だくチャンスのお盆かもしれませんね。

台掌 副住職 谷川寛敬



ラニ・フラ・ホア

コロナ渦の中、皆様いかがお過ごしでしょうか？
フラ界も自粛モードで各イベントも延期中止となり、不安な
日々を過ごしております。そんな中、フラショップのアロハ
スタンダードさんが、全国のハラウ（フラ教室）の協力のも
とユーチューブを立ち上げられました。
各お教室の活動状況などを共有し助け合えたらと言う思い
からです。
私達「ラニ・フラ・ホア」の撮影は、既に終わっております。
8月の第一週頃にアップされる予定です。
「KEEP ALOHA」で検索してください。
宜しければ、グッドボタン押してくださいね。

KEEP ALOHA Project

コロナ禍における影響でフラ業界はレッスンの自粛から
年内の発表会やイベントの延期中止が相次いでおります
ハワイも同様に日本との交流・往来も含め未来に対し不安が続いています

思いやりや礼儀、助けを求められる素直さ、そして団結し耐える強さ
今まさに“ALOHAの心”が試されていると感じています

この度フラをはじめハワイにかかわるすべての方が寄り添い、情報を共有し
助け合うことができる場 KEEP ALOHA Project を立ち上げました



秋季彼岸会法要

九月二十二日（火）

十時半

来月はお彼岸月です。